

「31センチの約束」を読んで

宝木塚小学校 四年 堀 なのは

書名 「31センチの約束」

著者 「嘉悦洋」

絵 「ながん」

この本は、白血病になったゆいと、ゆいのためにがんばるサラたちが、ヘアドネーションを通して、けんかをしながらも成長していく物語です。

私はヘアドネーションをするために、二年間かみの毛をのばし続け、31センチ直前に脱毛症になってしまいました。ゆいとサラの気持ちをどちらも経験しているので、この本を読んでみることにしました。

私がヘアドネーションをしようと思ったきっかけは友達が教えてくれた時に、病気でこまっている人を助けたいと思ったからです。

この本の中のサラは、仲よしのゆいが病気になり、自分のかみをゆいにあげようとかみをのばし始めます。でも、バレーチームの約束でかみを切らなけ

ればならないのですが、サラはかみを切れず、チームのみんなにいじめられてしまいました。それでもゆいとの約束のために理由を言わずがまんしたサラは、思いやりがあつてすごい子だなと思いました。私だったら心が折れていたかもしれません。

そしてゆいは、白血病でかみがぬけてしまいました。大切なかみがぬけて、くやしさを不安な気持ちでいっぱいだったと思います。私は体が元気だったので、学校も習い事も続けられたけれど、ゆいは入院生活で楽しみもうばわれ、苦しかったと思います。それでも、サラがかみのことでいじめられたのを知って、バレーチームのまゆちゃんにかみのない頭を見せることで、サラを助けようとしたゆいは、ゆう気があると思いました。かみがぬけてしまった頭を人に見せるのがどんなにこわいか、私も経験したので分かります。相手がどう思うか、からかわれたらどうしよう、さけられたらどうしよう、と色んなことを考えてしまいます。

私はウィッグを付けて学校に行くことになった時、とても不安でした。でも私の事を知ってなみだを流して心配してくれた友達やいつもと変わらずせつしてくれたみんなにすぐわれました。男の子とまちがわれるなど、いやな思いもしましたが、家族や友達など自分をささえてくれる人がいるから私は負けません。

この本を読んで、たがいに助け合える友達のそんざいや二人を理かいしてくれる周りの人達の大切さを感じる事ができました。だれかがなやんでいたり、こまったりしていたら、自分に関係ないと思つて見すごしたり事情も知らずに、決めつけたりしてしまうのではなく、一緒によりそつてあげられるそんざいになりたいです。

最後に、私の今後の目標は、ヘアドネーションをもう一度やることです。かみがいつ元通りになるのかまだ分からず、他の人より時間がかかると思いますが、でもウィッグをもらったおん返しをしたいのでちりようをがんばってあきらめずにかみをのばし

続けたいと思います。この本を通してヘアドネーションをする人が、一人でもふえることを、願っています。(原文ママ)